

Motoyoshi Akikawa

0日目(8/5)――――――――――――――――――――――――――――――――――

12Hと1.5Hの飛行を終えて空港に到着したのは夜の9時近くになっていた。けれども空は真っ暗ではなかったのは経度の高い位置に来たという感動があった。ロンドンタクシーと呼ばれる車からイギリスの雰囲気があたりに漂っていた。最初のコンビニでの買い物は、小銭と札の感覚が日本のままで、混乱してしまった。

1日目(8/6)――――――――――――――――――――――――――――――――

朝は7時30分に起床。太陽光は日本の10時頃の明るさだった。気温は寒くも暑くもなかった。自分たちの泊まった施設の周りには古い建物ばかりだった。そこに長い歴史を感じた。イギリスに来る前に、友達にイギリスの伝説の物語や、幽霊話を聞かせてもらったので、夜のお城は気味悪くも感じた。ギィーっと鳴る扉が恐ろしかった。

2日目(8/7)――――――――――――――――――――――――――――――

施設の案内では「首なし太鼓」といった4人の幽霊話に興味を持った。牢屋や壁に遺体が埋められているということも説明を受けた。建物の構造からインテリアなどはどれも立派なものだった。日本でいうセレブの生活を体験した感覚を覚えた。コミュニケーションに関しては他国の人との指文字のスバルやASLなども多少覚えることができて、スムーズな会話をすることができた。今夜はパブに連れて行ってもらった。日本では法律でお酒が禁止されているけれど、ここでの法律に従って飲む事ができた。

3日目(8/8)――――――――――――――――――――――――――――

今日は一日中レクチャーで座りっぱなしだった。食べては座って、座っては食べている感じだった。しかし、昼食も夕食も大変豪華な料理ばかりでついつい食べてしまう。唯一ご飯だけは日本人として非常に味がいまいちだったが、スペアリブなどの肉を贅沢に使った料理は私自身を満足させてくれた。レクチャーでは、休憩時間が20分程度で続けたので、ハードな感じもあった。グループで相談して発表する機会が多かったのは大変だった。「効果的コミュニケーションと交渉技術の向上」をテーマとしたレクチャーでは自身を持って、「ふくろう」タイプに手を挙げたのだが、日本以外だれも手を挙げていない事は非常に驚いた反面、国際的な文化の違いを学んだ。

4日目(8/9)――――――――――――――――――――――――――

今日の夜はBIIさんが全員にパブで飲み物をおごってくれた。運よく頼んだお酒は甘くておいしかった。パブが終わってから、コンピュータールームで日本からのメールのチェックと、デジタルカメラのデータが一杯になつたのでフラッシュメモリーに移動した。パソコンが文字化けして操作があやふやしたのは運がついてない。

5日目(8/10)――――――――――――――――――――――

今日の一番のサプライズはイギリスの健聴者がジェスチャーを理解して

いたことだ。朝から私達は数日間滞在していたお城からついに街へ出てきたのだ。
イギリス人は日本人と比べると比較的人柄がいいように思えた。
日本では話掛けられても無視するということが少なくないのだが、
非常に親切に道を教えてくれた。ビーチでは沢山の人がいて、
ゆっくりとした時間を過ごしているのを見て、のびのびしている姿が
輝かしかった。日本では時間に束縛されている部分があつて気をぬけない
ところがある。日本を客観的なアングルから見ることができた。

6日目(8/12)――――――

レクチャー内容では、「Culture Night」が非常によかった。
他国の文化や生活スタイルに関する説明は興味津々だった。
日本の発表が他国の人々に喜んでもらえたら嬉しいと思う。
今朝、jimさんからテロのニュースがあった。イギリスとアメリカ間の
飛行機を爆破させるというものだった。飛行機のダイヤルが乱れたようで、
自分たちの飛行機に影響があるかもしれないとのことだった。
のちに、手荷物がビニール袋で帰る姿になるとは予想もしてなかった。

7日目(8/13)――――――

お別れの日がやってきた。朝が4時と早く起きるのが辛かったがしかたない。
持ち物にビックリしたのは、フィリピンや中国、米国、英国ではデジカメやPCが日本製
の人が数人いたことだ。普段他国の人々を使っている自分が、自國のものを
使っている人を見た事がなかったからだ。飛行機の中では、
日本や自分の将来性について話をしたりしたが、
やはり日本ではノーマライゼーションが難しい状況にあるということを自覚し、
手話が言語として認められる事で、ジェスチャーが国民に浸透していく
といいと願っている。帰国したあとも聾に関して努力をしていきたいと思う。